

平成26年度東日本大震災アーカイブシンポジウム

4年目の震災アーカイブの現状と 今後の未来（世界）へ繋ぐために

東日本大震災から4年目に

震災記録の被災地内外における利活用の事例と課題を示し

今後の未来、そして世界へどのように震災記録や教訓を繋げていくか

について議論を行います

2015年1月11日(日)

13:00~17:00 (開場12:30)

入場料:無料

会場

東北大学 災害科学国際研究所棟 1階
多目的ホール
(仙台市青葉区荒巻字青葉468-1)

主催：東北大学災害科学国際研究所、国立国会図書館



災害科学国際研究所
IRIDeS
International Research Institute of Disaster Science



国立国会図書館
National Diet Library, Japan



2014年10月18日 宮城県仙台市若林区藤塚



2013年7月16日 宮城県名取市関上



2010年6月6日 宮城県名取市関上

平成26年度東日本大震災アーカイブシンポジウム 4年目の震災アーカイブの現状と今後の未来（世界）へ繋ぐために

プログラム

基調講演

デジタルアーカイブへの期待—時を超えてコミュニティをつなぐ

杉本 重雄氏(筑波大学図書館情報メディア系教授図書館情報メディア研究科研究科長)

事例報告

東日本大震災とデジタルアーカイブ
—宮城県の実践から

熊谷 慎一郎氏
(宮城県図書館司書)

未来への減災メッセージ
～「たがじょう見聞憶」が伝えたいこと～

小野 史典氏
(多賀城市総務部副理事・地域コミュニティ課長)

赤十字原子力災害情報センター
デジタルアーカイブ

志波 一顕氏
(日本赤十字社事業局救護・福祉部災害対策企画室赤十字
原子力災害情報センター参事兼東日本大震災復興支援推進本部参事)

みちのく震録伝の3年間のあゆみと
今後の展望について

柴山 明寛
(東北大学災害科学国際研究所准教授)

東松島市の取組み事例

加藤 孔敬氏
(東松島市図書館副館長)

市民ひとりひとりがセンサーになる
震災アーカイブ

佐藤 正実氏
(NPO法人20世紀アーカイブ仙台副理事)

震災アーカイブの
生涯学習施設的活用

北野 央氏
(せんだいメディアテーク企画・活動支援室主事)

国立国会図書館
東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」

諏訪 康子
(国立国会図書館電子情報部主任司書)

パネルディスカッション

4年目の震災アーカイブの現状と今後の未来（世界）へ繋ぐために

会場

東北大学 災害科学国際研究所棟1階 多目的
ホール(宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1)

市営バス(仙台駅から約20分)

- 仙台駅西口バスプール9番のりば
宮教大行き・青葉台行き(710,713,715系統)
「情報科学研究科西」下車
- 仙台駅西口バスプール9番のりば
青葉通・理・工学部先まわり 仙台城址南経由
動物公園循環(719,750,757系統)
「情報科学研究科前」下車

※初めてお越しの方は710,713,715系統をお薦めします。
※バスの所要時間は大まかな目安です。
道路の混雑状況などによって異なります。

タクシー(仙台駅から約20分)

料金: 約1,600円

※タクシーの所要時間と料金は大まかな目安です。
道路の混雑状況などによって異なります。

申込み

申込み方法 みちのく震録伝ホームページの
シンポジウム申込みフォームから

申込み締切 2014年12月26日(金)17:00

申込み詳細 みちのく震録伝
(東北大学災害科学国際研究所)

<http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp>

問合せ先

東北大学 災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門
災害アーカイブ研究分野 小野、柴山 ☎022(752)2099
メールアドレス: archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

表面の写真 (上) 提供:NPO法人20世紀アーカイブ仙台
(中)(下)提供:3がつ11にちをわすれないためにセンター
/せんだいメディアテーク、撮影・記録:工藤寛之